

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第168号 2021年7月10日 大和市民活動センター[拠点やまと]発行

1月号
2021



ベテルギウス玄関
7月6日の生け花



表紙絵は 「やまと国際フレンドクラブ」 主催
「やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を掲載しています。
今回のテーマは
～ささえたい、わたしたちの世界、
いまわたしにできること～
一般社団法人 Kickoff Company 受賞
杉山 栞愛さん 大和東小学校3年(現在4年)の作品

タイトル : “ Cheer up ! 世界中に元気を★ ”
メッセージ : 「チアリーダーたちが世界中にエールをおくって、
地球上のいろんなひとのいろんな気持ちの色で地球が光って
いるのを想像してかきました。ファイト！」
「やまと国際アートフェスタ」は
「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) * の
主催で毎年催されています。
* 草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「ともに
くらすまち 大和」を考えていくボランティアグループです。



YouTube 配信
はじめました！

各団体紹介映像を配信中

各団体の動画を見て、うちの団体も動画で紹介したい！
と思われた方はセンターにご相談ください

Instagram & Facebook



市民活動センターの情報を発信中！

FMやまと
77.7 MHz



やまもり☆ホットスクランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』

第1.3.5(火)生放送
9:00 ⇒ 10:00

＜出演しました＞ 録音CDが大和市民活動センターにあります。

第382回 6/15(火)「シネマサークル」

「シネマサークル」代表 浅利 悟郎さんと会員 神田 京子さんが
出演しました。映画好きの方々を中心に2003年に発足した「シ
ネマサークル」は映画鑑賞を通じて人間の生き方について考え学
び合うことで会員相互の親睦を図っている団体です。延べ会員は
125名、現在は女性2名、男性7名の計9名、不定期で月2回
(1回につき2本の映画)の上映会を実施しています。
上映する映画は会員の希望を募って決定し、終了後に感想を語り合
う時間を設けています。仲間と共に観たかった作品を大きなスクリ
ーンで鑑賞し感想を語り合う喜びを大切にしたいという想いがあっ
てこそ、それが長く活動が続けている要因のひとつではないでしょ
うか。
様々な個性を持つ映画好きの方々が集うシネマサークルでは
映画好きな方、古い名画を鑑賞したい方
を募集しています。浅利さんは
「ぜひ気軽に参加して下さい」
と語りました。



＜これからの出演予定＞ 第384回 7/ 6(火)「ジュニアスポーツのためのおうちでできるからだケアと食育」
第385回 7/20(火)「日本ケアトランポリン普及協会」

第383回 6/29(火)

特定非営利活動法人「やまとスポーツマネジメント」
「特定非営利活動法人やまとスポーツマネジメント」クラブ
マネージャー 海藤 経彦さんが出演しました。
2014年、大和市でスポーツ好きの若者たちが「スポーツに、
新たな価値を。スポーツで、新たな価値を」の理念を基に活動
を始め、2015年の設立準備会を経て2017年7月に「特定非営
利活動法人やまとスポーツマネジメント(通称 YSM)」を設立
しました。主に大和市内の幼稚園児～中学生158名の会員で構
成されチアダンス、ヒップホップダンス、アルティメット、か
けっこに加え4月から新たにスタートした「運動スキル向上
(マット運動、縄跳び、かけっこ、ボール運動)」の5種目のス
ポーツプログラムを毎週実施、また、大和市民まつりやスポ
ーツ大会など年に数回のイベントに参加するなど多岐に渡り活
動しています。スポーツを通して子ども達が成長していく姿が
見られることは何よりの喜びと語る海藤さん、ぜひ各プログラ
ムの無料体験会に参加していただきたいと呼びかけました。
特定非営利活動法人
やまとスポーツマネジメント
HP: <http://www.yamatosports.com>
E-mail: info@yamatosports.com
(表紙絵の杉山さんはYSMでチアダンス
を習っています。)



助成金

一般助成

助成対象

(1) 対象事業

障害児・者の自立と福祉向上を目的とした各種活動。障害児・者に対する自助・自立の支援事業。
助成決定以降、原則として令和3年12月1日から事業を開始し、令和4年5月31日(半年以内)までに終了する事業。

(2) 対象団体

営利を目的としない次の法人格を取得している団体(公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、社会福祉法人、特定
非営利活動法人、認定特定非営利活動法人)。もしくは、法人格がない任意団体。但し、当財団の理念に沿う公益活動において3年以上の
継続的な実績と、これを証明する資料があり、且つ今後2年以内に法人化する予定がある任意団体は対象。申請事業の拠点住所(実施場
所)が、東京 神奈川 千葉 埼玉 茨城 栃木 群馬 の関東1都6県。難病患者及びその家族を支援している団体(患者会等)も対象。

(3) 応募の対象外

法人としての年間収益(収入)が2億円以上。すでに定例化もしくはシリーズ企画などの事業。助成決定前に実施している事業。
活動が政治、宗教、思想などの目的に偏る団体や事業。一般助成採択期の翌期を含めた2期(1年間)。一般助成と継続助成の併願。
受付期間: 令和3年7月1日～令和3年8月31日(消印)
主催: 公益財団法人 洲崎福祉財団
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目2番1号 日本橋室町三井タワー15階公益財団法人 洲崎福祉財団 事務局宛
電話番号 03-6870-2019 ※平日9:30～16:00(土日・祝日 休み)
ファックス番号 03-6870-2119※令和2年12月14日にFAX番号を変更いたしました。
HP: <http://www.swf.or.jp/support1/index.html>



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第168号 発行日: 2021年7月10日

発行: 大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

TEL: 046-260-2586 FAX: 046-205-5788
e-mail: yamato@ar.wakwak.com
<http://www.kyodounokyoten.com/>

第95回 連続共育セミナー 私たちの「子ども食堂」こんな活動しています!! 開催報告

去る6月22日(火)の午前10時から、市民活動センターへの参集及びZOOM参加のハイブリット型で、共育セミナー(第1部:子ども食堂運営団体の活動報告、第2部:グループセッション)を開催いたしました。

第1部では、「スマイルダイニング HANA」の市原信行さん、「わにわに食堂」の宮元純子さん、「たまめし食堂」の滝本圭さんから、それぞれの団体の活動報告をしていただいたのち、参加者からの質問に答えていただきました。

第2部は、3団体を含めた参加者13名が2グループに分かれて、ワールドカフェ方式によるグループセッション(お題は、「子ども食堂は、誰の居場所だ?」で、意見交換を行いました。

サポーターの視点 その1

連携のコーディネーターが必要

近ごろ、「子ども食堂」の存在が広く一般に知られるようになってきました。「子ども食堂」を必要とする家庭が増えて認知度が上がったということならば、複雑な気持ちになるのは私だけではないと思います。「子ども食堂」=「貧困」と定義づけられることに抵抗を感じています。

「わにわに食堂」(実施主体:NPO法人さくらの森・親子サポートネット)は、子どもたちが自分でおにぎりを作れるようにと、食事とは別におにぎりの作り方を教えているとのこと。ご飯さえあれば、おにぎりを作って食べることができる。生きていく力を身に付ける実践と感じました。

食事以外のボランティアとして「ちくちくボランティア」の存在は魅力です。お年寄りの方たちが食堂で使う布巾をちくちく縫ってくださっているとのこと。ちくちく縫う作業を子どもたちにも教えてあげてほしい。そこから、子どもたちとお年寄りのつながりができ、縫うという技術の伝承にもなるのでは?との意見に、宮元純子さんはいいアイデアをいただきましたと受け止めてくださった。その柔軟さが地域の親子が何かあったときに寄れる頼もしい場所となっていて、笑顔でつながることの大切さが実践されていると、うれしく感じました。

「この子に来てほしいという子どもたちがいた」ことがきっかけで、「たまにはみんなでめしでも」との思いで始めた「たまめし食堂」(実施主体:子ども食堂プロジェクト@やまと)は、地域のみんなの心と関係性を育てる場所として存在していると語った滝本圭さん。

←食事風景-たまめし食堂

寄付された食材や物資が使いきれなかったものをおすそ分けするフードバンクミニ版が「たまたく」。

衛生面で課題のある子どもたちを「たまには風呂でも」と銭湯に連れていく「たまふろ」と、現場から見えてきた必要な活動の広がりを感じました。朝ごはんを食べさせたい等、やりたいことが増えているとも語り、子どもたちが大きくなってからも来られる場所でありたいと、どこまでも寄り添う姿勢に感動を覚えました。

みんなが笑顔になれたらとの思いで名付けた「スマイルダイニング HANA」(実施主体:(公社)青少年育成支援 大和の心)は、上和田いちよう団地で第2、第4日曜日に小学生40人くらいにお弁当を配布。大人と子どもが交流する機会になればと、無料チャリティバザーを催したり、野菜を育てて保育園児に収穫体験させたり、スタッフとお友だち感覚になれたらいいなとの思いで音楽教室やリトミックを実践しているとのこと。

防災面も含めてつながっていききたいとの思いで、地域の自治会の方たちの協力をいただいていますと語った市原信行さん。

大和市内の「子ども食堂」とつながりたいとの市原さんの希望で開催が決まった今日のセミナーは、情報交換の場となったことは確かですが、連携の第一歩となれたのでしょうか。連携をコーディネートするコーディネーターが必要だと思いました。

(サポーター:石川美恵子)



みんなで入るお風呂は楽しい!



畑での収穫体験



食事風景-スマイルダイニング HANA

サポーターの視点 その2

子ども食堂の役割は?

共育セミナーに参加し学んだのは、子ども食堂の役割には、子どもの栄養状態を良くすることに加え、①子どもたちの居場所を作り自立を促すこと、②子どもの家庭の問題点に気づくこと、③子どもの保護者の子育てを支援すること、があるということです。

1つ目に学んだのは、子ども食堂では子どもたちが、友達同士の輪に入り人間関係の築き方を学べるということです。食事を通して子どもたちの交流を広げる子ども食堂ですが、食事以外にも、子ども達に対して畑での食材の収穫体験や、クリスマスのイベントを開いている所もあります。そういった場に新しく子どもが入ってくると、他の年上の子どもに「新しい子が来たから遊んであげてよ」と関わり方を教えているそうです。

2つ目に子ども食堂は、子どもの様子から家庭の問題に気づく場として機能している、と学びました。訪れる子どもたちには、体を十分に洗っていない子どももいるそうで、運営者がそういった子どもたちに気づき、声をかけ大勢で地域の銭湯へ出かけることもあるそうです。また、「コロナ禍による休校措置で孤立した子どもたちにも、弁当配布を通じて気づくことができた」と話す運営者の方もいました。



子どもたちが自分でおにぎりを作れるように-わにわに食堂

子ども食堂は、みんなの居場所

今回の共育セミナーを終えて、活動報告をしていただいた3団体の方に改めてお話を伺ったり、セミナーをふりかえってみると市民活動センターとして、このセミナーを開催した意味を改めて考えてみました。

発表者や子ども食堂の運営者から、「きょうのお話を、すぐに施設内で共有しました。またこういう場を設けて欲しいです」とか、「今は、コロナ禍でお弁当を作っている時は子どもたちに来てもらえないけれど、そうでない時に事務所に遊びに来て、悩み事を話すのをスタッフが聞いたり、勉強を教えたりしています」という話を聞いたり、当日の活動報告では、自治会の方々が多くかかわっているという話も聞きました。

「子ども食堂は誰の居場所だ?」は今回のセミナーの第2部のグループセッションにおいて、意見出しをするためのお題としたものですが、これは子ども食堂の出発点にある理念だろうとすんと腑に落ちたからです。子ども食堂は、食材、場所、労力の提供を多くの方々に頼っているが故に、関わる人々すべての「居場所」になり得る。そうなんだなあと感じました。

今回のセミナーを開催するにあたり、参考にしようとひらつか市民活動センター主催の「ちいき・こども食堂の目指すこと」に参加した際に特に印象に残った子ども食堂運営者の発言がありました。

「子ども食堂を始めようと思った私たちは、商店街の飲食店を、1軒1軒回りました。食事をして、会計時に『あの、私たち、子ども食堂というものをやりたいんですけど、食堂(ラーメン屋さん)がお休みの日に、厨房を貸してもらえませんか?』とお願いしました」。このアナログ的な地域ローラー作戦のようなアプローチが大切なことだと共鳴したのです。この共鳴は今回のセミナーによって更に深まり、子ども食堂は、関わるすべての人の居場所になることが、継続するための大切な秘訣だと思えるようになりました。皆さん、ありがとうございました。

(Fのつぶやき)



(サポーター:尾畑 翼)